



1村1自然エネルギー プロジェクト

平成25年4月24日



団体名 自然エネルギー東御地域協議会

職 氏名 会長 楢原 聚



自然エネルギー東御地域協議会は、信州の自然エネルギー資源を活かした「1村1自然エネルギープロジェクト」を以下のとおり推進しています。

区分	摘要			
取組の名称	木質バイオマスを活用したエネルギー自給プロジェクト			
取組の主体	自然エネルギー東御地域協議会			
取組の構成団体名 (複数の者で構成する場合)	自然エネルギー東御地域協議会 連携する団体（東御市（市民生活部）、JA信州うえだ他）			
普及する自然 エネルギーの種別等	木質バイオマス（木質チップ、薪）			
取組の目的	間伐材等を活用する地域内資源循環型まちづくり			
地域関係者との協働 の内容	① 地域障害者施設との協働によるチップボイラ実証実験、 ② 地域企業とのチップづくり、③大学との連携によるボイラ ー効率化、④東御市との森林活用の協働等			
プロジェクトの部門	①地域づくり、②ソーシャルビジネス、③開発研究、④その他			
取組（事業）の段階	①構想段階 ②実施段階 ③発展段階			
取組の概要	地域住民が協働して、地域の森林資源から発生する間伐材等を 活用し、チップづくりやチップボイラ開発を推進し、東御市 内で地産地消する「バイオマスエコタウンづくり」を、チップ ボイラ設置導入やバイオマスエネルギー供給事業を通じて 推進する。			
事務局担当者の 連絡先	担当者所属	地域協議会事務局	氏名	吉田 周平
	TEL	0268-63-5969	email	omoiyari@po15.ueda.ne.jp
備考				

注) 変更登録申請を行う場合は、変更箇所に下線を引いてください。



区分	内容
取組の内容	<p>当プロジェクトは東御市内の地域活性化のために、平成24年度から地域協議会を設立して検討をスタートした。地域の木質バイオマス資源を活用した木質チップ生産供給と、チップボイラーを活用した地域内消費による循環活用を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年度の取り組み 長野県自然エネルギー自給コミュニティ創出事業採択(11月) 木質バイオマス利用学習会の開催(12月) チップボイラー開発試作・障害者施設へ設置(平成25年1月) 連続燃焼実験4ヶ月間継続中(平成25年4月) ・ 平成25年度の計画 チップ材供給システムの構築(上小森林組合～生産事業所他) 間伐材等搬出利用の検討(上小森林組合・市役所農林課との協議) 法人化の推進 チップボイラーの需要者掘起し、ビジネス化の検討と推進 活動補助金の申請と施設規模に即したボイラーの製作導入 設置施設にて連続燃焼実験
取組を行うコミュニティの区域	東御市内(一部上田市を含む)
構成員の役割	事業推進主体：自然エネルギー東御地域協議会、木質チップ生産供給：地域企業(有)三井金属等、ボイラー開発製作：(有)太田鉄工所、森林資源供給：上小森林組合、東御市農林課(主なプロジェクト推進役)
現に活動しているかの有無	有り(平成24年度設立、平成25年度法人化予定)
活動の成果等の帰属	東御市住民(一部上田市住民を含む)
普及推進体制	自然エネルギー東御地域協議会バイオマス部会を中心に推進する。
取組の有効性	東御市は中山間地域で寒冷地であり、暖房・給湯は石油・ガスに頼っている。価格の高騰やCO ₂ 削減の面から地域住民の生活を圧迫している。地域の資源である「間伐材等」を有効利用し、安価な「チップボイラー」を中心とする地産地消の資源循環コミュニティ創出が望まれている。本構想はこれらの課題に効果が高く、地域住民の生活安定、地球温暖化対策としても有効なものである。
継続性及び発展性	東御市役所や地域住民・企業の協力があり、中山間地域のエネルギー地産地消モデルとして県の助成を受け、第一ステップは昨年度終了した。本年度は、さらに実用化を目指して「施設規模に即したボイラーの製作導入」と「チップ材の安定供給システムの構築」に取組む。
関係法令の手続き状況	法人化に必要な手続きを進める。
団体設立年月日	平成24年6月24日
ホームページ	無し。
備考	

添付書類 ①組織の規約(市町村の場合は不要)、②プロジェクトの概要書(別紙)、③構成員名簿、④取組の内容の分かる資料(写真等)

